

ご注意ください

烏帽子岳登山道で

カエンタケが目撃されました！

さわっちゃダメ！



森で見つけた 赤くてかわいいニョロニョロ。
森の精霊？ こびとのお祭り？

じつは、触るだけで危険な**猛毒**のキノコなんです！



この資料は2009年11月現在の情報をまとめたものです。今後、対処法や応急処置法が変わる可能性がありますので、常に新しい情報を入手するよう心がけて下さい。

炎のようなこのキノコはその名もカエンタケ（火炎茸）。ごく稀なキノコでしたが、最近数が増えているようです。

森のなかで楽しく安全に過ごしていただくために、このカエンタケとの正しい付き合い方をお伝えします。

協力：橋本貴美子 准教授（京都薬科大学）／（財）日本中毒情報センター

参考資料：『日本の毒きのこ』長沢栄史監修（学研）／『毒きのこ今昔』奥沢康正ほか編（思文閣）

資料制作：萩原・ナハ・裕作（岐阜県立森林文化アカデミー）／構成：こはやしやよい

問い合わせ先 大垣市役所農林課 林業振興G Tel 47-8629
上石津地域事務所 産業建設課 Tel 45-3115

カエタケってどんなキノコ？

カエタケは、梅雨時から秋にかけて、ドングリのなるコナラ、ミズナラなどの広葉樹の森の地面や木の根元（ときには幹）に生えます。いわゆるキノコ型でなく「棒状」「へら状」「手のひら状」「とさか状」などいろんな形があり、色は、オレンジ、赤、赤紫と段階によって異なります。少しでも似たキノコを見たら「カエタケかもしれない？」と思って下さい。



最近このカエタケの目撃数が増えています。原因はまだ解明されていませんが、近年拡大している「ナラ枯れ」で枯れた木やその周辺に多く生える傾向があるようです。ナラ枯れの波を追いかけてカエタケが増え続ける可能性があります。あなたの近くの森は、大丈夫？

これから増えていく!?

触ったら？食べたら？ どうなるの？

カエタケに含まれるトリコテセンという毒は、化学兵器に使われるほど恐ろしい毒で、キノコの中でもかなり強い毒です。キノコの汁が肌に触れただけで、皮膚がただれ、ポロポロとむけてしまいます。ですから食べたら大変！全身が真っ赤に炎症し、腹痛、嘔吐、下痢、顔面脱皮、脱毛、手足のしびれなどの症状が現れ、やがて内臓や脳にも障害をもたらす死に至ります。

中毒 110 番！ (財団法人日本中毒情報センター)

化学物質（タバコ、家庭用品等）、医薬品、動植物の毒（キノコ含む）等によって起こる急性中毒について、実際に事故が発生している場合に限り、情報やアドバイスをもらえるサービスです。（一般は無料）
大阪 072-727-2499 (365日24時間)
つくば 029-852-9999 (365日9時～21時)

▶▶▶ 触ってしまったときの応急処置

トリコテセンは脂溶性化合物で、皮膚に付着するとゆっくりとしみ込んでいくそうです。少しでも早く喰い止めるために、接触部を石鹼（界面活性剤が効く）でよく洗ってください。近くに石鹼がない場合は、応急処置として水かお茶でよく洗い流し、その後、石鹼で洗ってください。

この行為は4～5時間後でも効果があります。石鹼が使えない部分（目や粘膜部など）にキノコの汁が付いた場合は、とにかく流水でよく洗い流して下さい。応急処置後は、すぐ病院へ。

▶▶▶ 食べてしまったときの応急処置

とにかく一時でも早く吐かせて、病院に連れて行くことです。ぬるま湯を飲んでのどに指を突っ込み吐く作業を数回行って下さい。炭を細かく砕いて水に混ぜ飲ませるのも有効です。炭が毒成分を吸着し、体内に吸収されるのを防ぎます。子どもの場合、現場を目撃しない限り中毒の原因が分かりづらいため、病院でも対処が遅れがちです。「全身が真っ赤に炎症を起こす」といった中毒症状や、「白血球が急激に減少する」という検査結果を参考にして下さい。

注 この情報は、2009年11月現在のものです。対処法については、常に新しい情報の入手を！

危険なカエタケも、動植物が織りなす生態系の大切な一員です。
必要以上に駆除せず、上手な付き合い方をしていきませんか？